

TOPICS

- ① 高等教育研究開発センター長就任の挨拶と今年度のセンターの取組内容について
- ② ラーニングサポートカフェの取り組み
- ③ 保育者版「公務員になりたい！」

高等教育研究開発センター長就任の挨拶と今年度のセンターの取組内容について

今年度より高等教育研究開発センター長を拝命いたしました日野勝吾です。早いもので本学に奉職し、今年度で11年目となりました。日頃はコミュニティ政策学部において「民法（総則・物権法）」や「債権法」等を担当しています。法律学（私法学）、主に労働法や消費者法分野を主な専門とし、特に公益通報者保護制度の実効性確保のあり方等を研究しています。なお、2020年4月から2年間ではありますが、高等教育研究開発センターのセンター員として、同一名称科目（総合教育科目）の成績評価の方法と基準に関する調査等に従事いたしました。

高等教育研究開発センターは、2013年に開設されましたが、これまで本学全体の教育改革において先駆的な調査・研究に取り組み、学修者の視点に立った教育手法の開発を通じて、本学全体の教育研究の改革・改善に多大な成果を挙げてまいりました。今後も、こうした流れを止めることなく、さらに加速させることができるよう、微力ながら、高等教育研究開発センターの業務を通じて、学修者の視点に立ち、本学の教育の発展・向上に貢献してまいります。

さて、今年度の高等教育研究開発センターの重点的な取組内容としては、活動方針及び活動計画（2023年度～2025年度）に基づき、これまでの調査内容等を踏まえ、学修者本位の観点から本学教育システムへの導入の是非等について果敢に検討してまいります。

具体的には、2023年度に実施されたアセスメントに関する再構築に向けた調査を踏まえ、コモン・ループ

2023年10月31日提出

活動報告「アセスメントプランの再構築に関する事項」の取り組みについて

2023年度、高等教育研究開発センターの調査研究活動の1つに「アセスメントプランの再構築に関する事項」が加えられた。2019年度までに実施されたアセスメントに関する基礎調査を踏まえつつ、アセスメントプランの再構築案の提示を目指した調査・研究活動に取り組んだ。

本取り組みについては、計4回（8/27、8/4、8/28、10/24）の担当者打ち合わせ及び高等教育研究開発センター会議において中間報告（9/6）を行っている。

担当者は、佐佐木智絵（看護栄養学部）、田中寿夫（総合福祉学部）、青柳淳子（コミュニティ政策部）、中村匠（千葉事務部 第二キャンパス事務室）である。

以下、担当者による取り組みを報告する。

1. 本学のアセスメント活動に関する全体的な現状整理

1）大学全体で実施しているアセスメント

はしめに、現在、大学全体で実施している各種アセスメントと大学の3つのポリシー（入学者受入れの方針【AP】、教育課程編成・実施の方針【CP】、卒業認定・学位授与方針【DP】）との対応関係を下表のように整理した。

取り組み	対象者	ポリシー
1 入学試験	1年生	AP
2 英語プレースメントテスト	1年生	AP
3 新入生調査	1年生	AP
4 学修行動等調査	全学生	CP、DP
5 成績不振学生の調査	全学生	CP、DP
6 休学・退学率	全学生	CP、DP
7 GPA分布	全学生	CP、DP
8 卒業時調査	4年生	DP
9 卒業後調査	卒業1年目の卒業生	DP
10 内定・就職率、進学率調査	4年生	DP
11 卒業生の就職先等への意見聴取	学外者	DP

「入学試験」「英語プレースメントテスト」「新入生調査」は、主に入学時の学力や入学前の学修歴を測定し、APで定めた資質・能力の適切性を点検・評価するものである。なお、2024年度以降のAPでは、高等学校までの学習を大学入学後の学修活動に円滑に結びつけるための「入学前教育」と「入学直後の修学基礎教育」を行うと明記されている。したがって、今後は「英語プレースメントテスト」以外にも、日本語能力や基礎的ICTスキル、各学位プログラムの入学時点で身につけていることが期待される基礎的学力を新入生の負担が過剰にならないよう配慮しつつ測定し、その結果を分析、考察することで教育改善に結び付けることが望まれる。

「学修行動等調査」「成績不振学生の調査」「休学・退学率」「GPA分布」は、CPで定めた教育課程の適切性及びDPで定めた資質・能力の適切性を点検・評価するものである。このうち「GPA分布」については、現在は、各科目担当者への個別のフィードバックとIR室による1年生の状況調査のみにとどまり、教育成果のアセスメントとして活用されているとはいえない状況にある。そこで、高等研の2023年度調査研究活動には「成績評価分布の公表に関する事項」が含まれており、担当者により検討が進められている。

本学入学生が「在学中、CPに基づき学修が進められているか」、また「卒業時にDPを満たす人材になったか」を検証するために、上記4つのアセスメントのほか、以下2つのアセスメントが求められるのではないかとされる。第一に、本学CPに「社会人基礎力」を測定する機会を設け、教育効果を点検評価することである。第二に、在職生に対する意見聴取等、質的な調査を行い、学生の学修環境の改革に資することである。

「卒業時調査」「卒業後調査」「内定・就職率、進学率」「卒業生の就職先等への意見聴取」は、DPで定め

1

図1 2023年度 アセスメントプランプロジェクト報告書

(次ページへ続く)

高等教育研究開発センター長就任の挨拶と 今年度のセンターの取組内容について

リックに関する事項を含めてアセスメントプラン案の再提案を行うなどして、アセスメント活動を推進していく予定です。また、開始後1年が経過した全学共通基礎教育科目「S-BASIC」に関して、その効果測定や実務上の課題等を整理するとともに、学生・教職員の「S-BASIC」に対する認知度を確認し、改めて全学的に「S-BASIC」の概要や要点を幅広く周知を行い、「何のために学ぶのか」「何を身につけることができるのか」を可視化できるよう展開いたします。さらに、「S-BASIC」のキャップストーン科目である「創造思考法」（4年生配当科目）の開講に向けて、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関係を踏まえつつコアシラバスの作成を進めてまいります。その他、全学的なFD活動の展開や、「全学共通の英語教育プログラム」「数理・データサイエンス・AI教育認定プログラム」の実効性向上に向けた取組みなど、「教育開発部門」、「基盤教育部門」、「数理・データサイエンス・AI教育部門」の各部門が連携しながら活動を継続いたします。

こうした高等教育研究開発センターの取組みを進めるにあたっては、なにより教職員の皆様方のご支援・ご協力あってこそ、と考えております。教育・研究・校務等にご多用のところ、大変心苦しく感じておりますが、引き続き、高等教育研究開発センターの諸活動に対するご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後に、温故知新ではありませんが、近時の執務の関係で、学校法人大乗淑徳学園「淑徳大学の改革の方向性と近未来へのいくつかの課題」（2003年3月）に触れる機会がありました。文中には、「入学前から卒業後まで、学生が本学に帰属意識を持ち続けられるサポート体制」の構築、学生の志向・進路に対応する履修の柔軟性と卒業後の目標を合致させた「目的志向型クロスカリキュラム」構想、各キャンパスの講義等をどのキャンパスでも自由に受講できる「バーチャル・ユニバーシティ」構想、そして、多様な学生の受入れに伴う「職員を含めた健全



図2 S-BASIC概要図

な教育体制確立のための役割分担体制構築」等、20年以上が経過した現在に通じる示唆や諸課題も見受けられるところです。

今一度、原点に立ち戻り、「誰のための教育か」、そして、「誰のための大学か」を問い直しながら、本学の教育の質を向上させ、学生がより高い学修成果を挙げて、社会へ決然と羽ばたける環境づくりが不可欠といえます。そのために、高等教育研究開発センターの取組成果が本学の強みや特色となり、ひいては「淑徳ならではの」教育展開へと結びつけられるよう努めてまいります。

先の「淑徳大学の改革の方向性と近未来へのいくつかの課題」（2003年3月）による基本方針（目標）には、重点課題とともに次のように明記されています。

「学生の満足度日本一の面倒見の良い大学を目指す。」

教職員の皆様方におかれましては、高等教育研究開発センターの諸々の取組みに対する引き続きのご理解・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

（高等教育研究開発センター長・副学長 日野勝吾 教授）

先生方が取り組まれている面白い取組等の事例紹介 # 1

ラーニングサポートカフェの取り組み

人文学部人間科学科の松本良恵先生が、本年度4月下旬頃より東京キャンパス9号館のフリースペースで実践されている「ラーニングサポートカフェ」の取り組みについて紹介したいと思います。著者（田中）が、ラーニングサポートカフェの取り組みが面白そうだと思い、松本先生から、開始の経緯などを中心にお話をうかがいました。ここでは、その内容を紹介したいと思います（四角に囲まれた文章は、松本先生からいただいたコメントを引用したものにします）。

・「ラーニングサポートカフェ」とは

ラーニングサポートカフェは、「（松本先生の担当している）授業に関する質問を受け付ける」という内容で、独自に実施されている取り組みになります。先生の前任校にあったラーニングサポートセンター（センター教員やアルバイトの先輩学生が、レポートの書き方、プレゼン資料の作成や練習など、学修に関する様々な相談に乗り、「自律的な学修」をサポートしていく取り組み）を参考に開始されたそうです。

本学にもこうしたサポート体制があればいいな、と思っていたのですが、「無いなら自分でやればいいか」と思い、学修支援におけるアウトリーチとして、教室や研究室の外に出て、まずは「自分が担当している授業に関する質問を受け付ける」という枠組みで、出来る範囲でやってみようと思いました。

・ラーニングサポートカフェの運営について

ラーニングサポートカフェは、気軽に行ける場所というイメージを学生に持ってもらえるように運営されているそうです。運営にあたっては、カフェのコンセプトにあわせた準備をされています。

「質問をしても良い場である」ということを示すために、一目で分かる目印が必要だと思い、コピー用紙とクリアファイルで「カフェ」というコンセプトに沿うような「看板」のようなものを作りました。同様に、質問を書いてもらうリアクションペーパーも「オーダーシート」と呼ぶことにして、デザインもそれらしく工夫することを心がけました。

こうした取り組みをしていることを、自分が担当しているすべての授業で周知し、そのうえで毎週月曜の開催日には、Googleクラスルームを通じて、お知らせを配信しています。

・ラーニングサポートカフェの特徴と機能

「気軽に行ける、質問して良い場」と設定されるラーニングサポートカフェは、授業内で“質問がある人”と言われて質問をすることに抵抗のある学生も質問しやすい場であると思われます。また、ラーニングサポートカフェは、授業について質問するという限定的だけれども明確な利用目的が示され、学生が日常的に利用するフリースペースで展開されていることも特徴的といえます。学生によっては、オフィスアワーなどよりも利用しやすい場になっているのではないかと感じました。実際、授業内テストが近くなっている現在、利用者もふえてきているようです。実施されている先生ご自身としては、以下のようなメリットを感じられたそうです。

利用者はまだ多くは無いのですが、心理学統計法などの専門性の高い授業について質問に来た学生がいました。授業中は時間の関係上できない詳しい話や、少し先の話などについても触れながら質問に答えたりすることができました。また、他の人の質問とそれに対する私の回答を聞くことで、質問した本人以外の学びにもなっているように感じました。

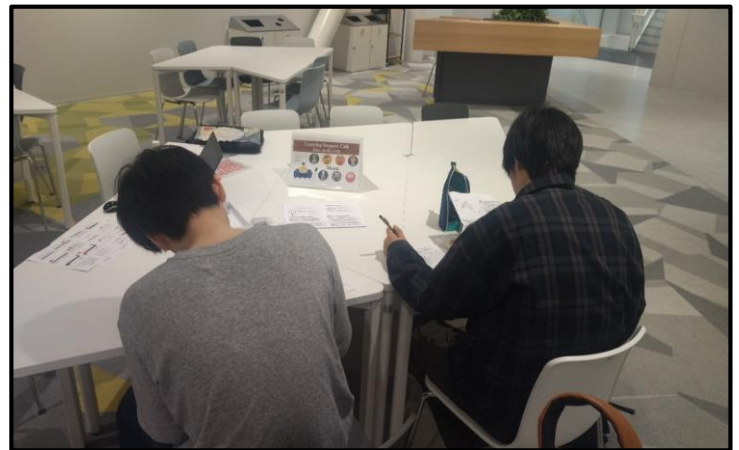


図3 ラーニングサポートカフェを利用している学生の様子（掲載について学生了承済）

松本先生が人間科学科で担当されている授業は必修科目も多く、心理学統計法や心理実験といった専門性も高く、学生によっては理解が難しいものを含んでいます。そういった意味でも、学生にとっても心強い取り組みだと感じられました。

（人文学部 田中元基 助教）

先生方が取り組まれている面白い取組等の事例紹介#2

保育者版「公務員になりたい！」

淑徳大学教育学部こども教育学科の幼児教育コースでは、指定保育士養成施設の一つとして保育士・幼稚園教諭を目指す学生が日々切磋琢磨し、勉学に励んでいます。専門演習で担当している学生の個別面談を通じて卒業後の進路について、学生と話す機会が増えてきましたが、ほとんどの学生が多かれ少なかれ公務員保育士に関心を持っていることを実感しています。私は、2024年3月まで淑徳大学短期大学部こども学科に所属し、そこで公務員保育士・幼稚園教諭を目指す学生のための科目である、就職実践講座（保育士試験）という授業を担当していました。今後のキャリア教育・職業教育の一助となればと、当時の取組について紹介させて頂きたいと思います。

はじめに、学生を公務員試験の合格へ導くためには、教職員が連携して学生のキャリア支援にあたることが最も重要だと考えています。東京キャンパスのキャリア支援室では、入学から進路決定までのロードマップを作成しており、私もキャリア支援委員会のメンバーとして、また就職実践講座を担当する教員として、そこに参画しておりました。短期大学部は卒業まで2年間しかないため、初年次から公務員試験の教養科目を学べる公務員試験対策講座や模試に参加できるようにして頂きました。また、2年次には公務員二次試験対策講座を実施し、論作文や面接指導を行って頂きました。私が担当する就職実践講座では、公務員試験情報の共有、専門試験対策、エントリーシートの添削、近隣自治体の採用説明会の開催など、全15回の授業を実施しました。

公務員試験情報の共有には、「公務員になりたい！」と題したGoogleクラスルームを開設し、採用試験実施の最新情報の発信を基本としながら、公務員試験とそれに準ずる社会福祉事業団の職員募集についても紹介しました。また、日頃の授業課題や実習で多忙になり、準備不足を感じて諦めてしまいそうになる学生のために、無理のない計画の立て方や卒業生の励ましのメッセージが書かれた受験報告書の紹介などもストリームを通して発信しました。公務員保育士・幼稚園教諭の専門試験内容は、一般的な行政職などの公務員試験とは大きく異なります。

はじめに幼稚園教諭の話をする、採用試験そのものを実施している自治体が非常に少なく、首都圏では特別区立幼稚園教員採用候補者選考（東京都）を除くと、数年一度若干名の採用があるかどうか、という現状があります。また、特別区立の選考における筆記試験は、ほとんどの設問が幼稚園教育要領から、そして東京都独自の政策に関する問題が数問という構成になっており、毎年その傾向が続いています。小論文の出題は、幼稚園の現場における事例検討が中心となっており、非常に良く練られた出題となっています。私は、時折この事例を公務員試験対策ではない授業課題として活用することもあります。学生自身の保育観が表出されやすい良質な事例検討課題なので、是非幼児教育に携わる先生方にもお勧めしたいところです。

話が逸れてしまいましたが、公務員保育士の専門試験については、全国保育士養成協議会が実施している保育士試験の内容と類似したものがよく出題されています。公務員保育士専用の問題集や保育士試験の問題集を活用して学習に取り組むことが有効です。試験範囲が広いいため、全分野を浅くサルベージしていくような試験対策が最も効率の良い学習方法だと思っています。授業では、幼稚園教諭を第一志望とする学生も含め、専門科目の問題集から取り組むように指導しており、試験本番までに一通りでも必ず全分野をカバーするようにしました。最近では、専門試験と論作文・面接のみ、独自方式（SPI試験の導入や自由課題など）、面接のみを採用試験として実施している自治体が増加しており、それぞれに個別に対応しなければならず、ますます複雑化してきているといえるでしょう。

エントリーシートは自分を知ってもらうための書類であり、ここに記載した内容を中心に面接で質問されます。そのため、面接時に詳しく答えられる内容を書いておく

（次ページへ続く）

先生方が取り組まれている面白い取組等の事例紹介#2

保育者版「公務員になりたい！」

ことが大切です。自治体によってボリュームや内容が大きく異なるため、個別に特化したサポートが必要となります。以下に公務員に特化したものになりますが、エントリーシートを添削する際のポイントとして学生へ指導した内容を列挙します。

- ・志望する自治体の保育や子育て支援、教育に関する情報を集め、その特色や最新情報を理解しているかどうか（自治体の基本構想や市・区長の所信表明など自治体の基本的な内容にも目を通しているかどうか）
- ・志望動機について、保育者という職種自体への志望動機だけではなく、その自治体で働きたいという情熱やそこで実践したい保育、理想と実現のための意欲が書かれているかどうか
- ・自己PRや長所・短所を述べる際には、自己分析ができしており、記述は自信の経験を交えたものになっているかどうか
- ・趣味や特技などを述べる際には、そのきっかけや魅力などが記述されているかどうか
- ・面接試験を想定した記述になっているかどうか
- ・誤字脱字や空欄なく適切なボリュームで丁寧に記述されているかどうか
- ・全てにおいて具体的な記述となっているかどうか

就職実践講座では、本学東京キャンパスが設置されている板橋区と連携し、採用説明会を学内で開催して頂きました。他にも、専門演習の時間を活用して、東京都や埼玉県社会福祉事業団の説明会開催や学校推薦枠を頂くなど、キャリア支援室が窓口となって、公務員としてのキャリア教育の場を作ることができました。今後も、公務員を目指す学生へのキャリア教育においては、自治体とのさらなる連携強化が必要だと思われます。既に、淑徳大学教育学部こども教育学科の初等教育コースでは、初年次セミナーにおいて自治体教育委員会や教育長の

講話などを実施しており、早期に教員採用試験の情報提供を行っています。また、東京都教師養成塾といった、大学からの推薦をへて養成講座や実習指導を受講し、特別採用枠で試験を受験可能とするプログラムが、埼玉県や千葉県なども含めて開催されています。公務員保育士の採用試験においても、このようなプログラムがあればと願ってやみません。

以上、これまでの公務員保育士のための取組のあれこれを述べさせて頂きました。淑徳大学短期大学部研究紀要では、テキストマイニングを用いたエントリーシートの分析なども実施しております。もしご興味を持って頂けるのであれば、読んで頂けますと幸いです。これからも、埼玉キャンパスが培ってきた就職支援を大切にしつつ、公務員を目指す学生の支援を続けていきたいと思っています。

（教育学部 田村美由紀 教授、東京事務部 生駒貴彦 課長、留学支援室 横尾朗子 主任）

センター年報原稿募集のお知らせ



淑徳大学高等教育研究開発センターは、2024年度に「淑徳大学高等教育研究開発センター年報第11号」を発刊いたします。つきましては、原稿を募集いたします。ぜひご投稿ください。

申込締切

2024年7月12日（金）

淑徳大学高等教育研究開発センター（ページ下部記載）宛に、

件名：「センター年報原稿について」

本文：「お名前」、「ご所属」、「連絡先メールアドレス」、「タイトル（仮タイトルでも可）」、「原稿種別」、「おおよその分量」、「概要」を記載の上、メールをお送りください。

淑徳大学 高等教育研究開発センター NEWS LETTER 2024 第1号

発行日：2024年7月9日

編集：淑徳大学高等教育研究開発センター

TEL：03-5918-8948 FAX：03-5918-8968

E-mail：kaihatsu@soc.shukutoku.ac.jp